

カタログコード:711866-5

# ラパポート-バシリアディス-ソーヤペプトンブイヨン

## RAPPAPORT-VASSILIADIS SOYA (RVS) PEPTONE BROTH

OXOID コード:CM0866

### ◆ 組成 (培地1Lあたり)

大豆ペプトン	4.5	g
塩化ナトリウム	7.2	g
リン酸二水素カリウム	1.26	g
リン酸水素ナトリウム	0.18	g
塩化マグネシウム (無水)	13.58	g
マラカイトグリーン	0.036	g
pH	5.2±0.2	

### ◆ 調製方法

本品26.75gを1Lの精製水に懸濁し、穏やかに加熱して溶解する。10mLづつ培養容器に分注し、115℃で15分間、高圧蒸気滅菌する。

### ◆ 用途・特徴

本培地は食品および環境検体からの*Salmonella*属分離用の選択増菌培地として推奨されている。

ラパポート・バシリアディス・ソーヤ (RVS) ブイヨンは原法の処方<sup>1)</sup>と同様に、*Salmonella*と他の腸内細菌とを比較した時に*Salmonella*属が持つ以下4つの特徴を考慮して開発されたものである。

1. 比較的高い浸透圧で生存できる。
2. 比較的低いpHで増殖する。
3. マラカイトグリーンに比較的高い耐性を示す。
4. 栄養要求が比較的低い。

RVSブイヨンはvan Schothorstら<sup>2)</sup>により報告された変法に基づくものであり、食品や環境検体からの*Salmonella*分離用選択増菌培地として推奨されている。この培地は前増菌なしでヒトの糞便検体からの*Salmonella*の分離に用いることができる。

RVSブイヨンは初期にvan SchothorstとRenauld<sup>3)</sup>が報告したラパポート・バシリアディス (RV) ブイヨンの変法である。変更した点は、

1. 調製したブイヨンの保存中のpHを維持するために、緩衝剤としてリン酸水素ナトリウムを添加した。
2. 塩化マグネシウム・六水和物の至適濃度を明らかにした。この2点の変更により増菌ブイヨンの信頼性を高めたと

われている<sup>1)</sup>。Peterzら<sup>4)</sup>は塩化マグネシウムの最終濃度の重要性を強調した。

### ◆ 方法

食品及び環境検体

1. 指示通り緩衝ペプトン水 (CM509) 225mLを準備する。
2. 指示通りRVSブイヨン (CM866) を調製する。
3. 緩衝ペプトン水225mLに検体25gあるいは25mLを加え、37℃で16~20時間培養する。その0.1mLを10mLのRVSブイヨンに接種、42℃±1.0℃で24時間培養する。
4. 増菌ブイヨンをMLCB寒天培地 (CM783) 及びプリリアントグリーン寒天培地 (変法) (CM329) に画線塗抹し、35℃で18~24時間培養する。*Salmonella*として疑われるコロニーは生化学的または血清学的検査を行う。糞便検体は前増菌は不要である。液状の糞便 (あるいは生理食塩水を用いた糞便乳濁液) 1または2白金耳 (3mm) を42℃に保温した10mLのRVSブイヨン (CM866) に接種する。42℃±1.0℃で24時間培養し、適切な選択寒天培地に画線塗抹する。

### ◆ 保存方法・使用期限

30℃以下の乾燥保存でラベル表示期限まで使用可能。調製した培地は2~8℃で保存する。

### ◆ 品質管理

陽性コントロール

*Salmonella typhimurium* ATCC14028

陰性コントロール

*Escherichia coli* ATCC 25922

### ◆ 注意

*S. typhi*が疑われている場合は本培地を使わないこと。本培地は42℃±1.0℃で培養することが推奨される。



## ◆ 参考文献

1. Rappaport F., Konforti N. and Navon B. (1956) *J. Clin. Path* 9. 261-266.
2. van Schothorst M., Renauld A. and van Beek C. (1987) *Food Microbiology* 4. 11-18.
3. van Schothorst M. and Renauld A. (1983) *J. Appl. Bact.* 54. 209-215.
4. Peterz M., Wiberg C. and Norberg P. (1989) *J. Appl. Bact.* 66. 523-528.